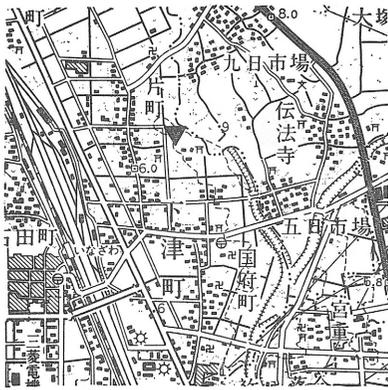


愛知・下津城跡

- 1 所在地 愛知県稲沢市下津町高戸
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)七月～一九八二年(昭57)三月
- 3 発掘機関 稲沢市教育委員会
- 4 調査担当者 岩野見司
- 5 遺跡の種類 城跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(名古屋北部)

下津城跡は、尾張国府跡の東二・五kmに位置し、木曾川の支流青木川右岸の自然堤防上に立地する。城の起源は詳らかでないが、鎌倉時代から守護所があった可能性がある。確実なのは、斯波氏が守護に着任した応永七年(二四〇〇)頃以降で、守護代の織田氏が居城していた。文明八年(一四七六)織田敏定によって城が焼かれ、城主織田敏広は国府宮へ

退いた。

退いた。

一九七九年(昭54)度から三か年にわたって県道拡幅部分で発掘調査が実施され、城の南北方向での範囲が確認された。一九八一年度の調査は、六か所の発掘区を設け、推定本丸・二の丸境の堀、二の丸・三の丸境の堀、三の丸西端の堀、土器溜り、土壇群等が検出された。堀の肩には護岸用と考えられる杭列が残存していた。出土遺物は、木製品(木簡、漆器、曲物、櫛、籠)、瓦(軒平瓦)、土師器、中国陶磁、中世陶器、土製品、石製品、銅製品等である。

木簡は、二の丸・三の丸境の堀、三の丸西端の堀の二か所で出土した。

8 木簡の積文・内容

出土した木簡は一四点で、うち四点(1)～(4)は笹塔婆、七点(8)～(14)は箸状の材に墨書したものである。

(1) 「南無阿弥陀佛 為 妙珍」 362×25×2 061

頭部は圭頭状で左右に二本の切込がある。

(2) 「 速得往生為常久

(3) 「 頭部は五輪塔状。

(3) 「 頭部は五輪塔状。

(3) 「 頭部は五輪塔状。

(3) 「 頭部は五輪塔状。

488×33×5 061

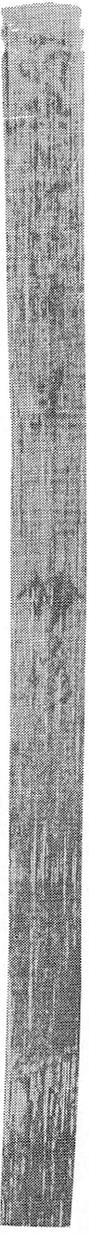
頭部は五輪塔状。

- (4) ×道□× (61)×20×2 081
- (5) ㄩ□ ] 90×21×4 032
- (6) ㄩ□ ] (75)×(7)×2 039
- (7) ㄩ■ ] (71)×22×2 019
- (8) ㄩ□ ] … ] (249)×11×(3) 065
- (9) ×□ ] (384)×11×(5) 065
- (10) ㄩ□ ] (235)×10×(5) 065

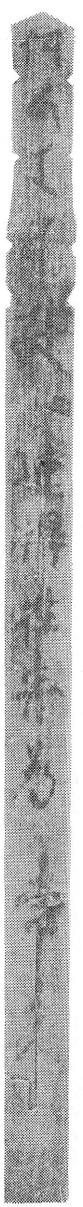
- (11) ㄩ□ ] (282)×11×(3) 065
- (12) ㄩ□ ] 297×11×(3) 065
- (13) ㄩ□ ] (276)×12×(4) 065
- (14) ㄩ□ ] (249)×9×6 065

9 関係文献

- 『稲沢市の木製品』 稲沢市文化財調査報告 XIV 一九八二年
- 『下津城跡発掘調査概要報告書Ⅲ』 稲沢市文化財調査報告 XVI 一九八二年
- (北條献示)



木簡(1)



木簡(2)